

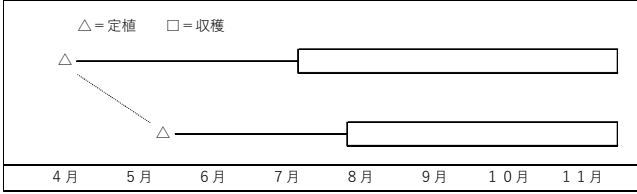
新規就農者がけん引する新たなパプリカ産地

1. 飯南町施設野菜生産組合パプリカ部会の概要

- (1) 生産者数 11名
- (2) 出荷量 40.1t
- (3) 栽培面積 124a
- (4) 販売額 26,152千円
(R5年度実績)
- (5) 作型



パプリカ栽培と収穫物



2. 取組の経過及び概要

(1) 飯南町農林業定住研修制度を活用した新規就農者の確保

H22に創設した研修制度にパプリカを位置づけ、県外就農相談会に参加することで、Uターン就農希望者を確保。



県外就農相談会

(2) リースハウス団地及び共同集出荷施設整備

新規就農の課題であったインシナルコスト削減と調製作業の省力化のために、H28からリースハウス団地を、翌29年には共同集出荷施設を整備。



リースハウス団地



共同集出荷施設

(3) 関西方面への販路開拓

マーケットインの視点で、取引市場を見直し、価格の高い関西方面に新たな販路を開拓。

(4) 消費者向けPRの充実

消費者の中心となる女性の視点により華やかな統一ロゴに変更し、それを印刷した包装フィルムやリーフレットを新調。

さらに、QRコードを印刷しパプリカメニューとレシピを照会したHPを開設。

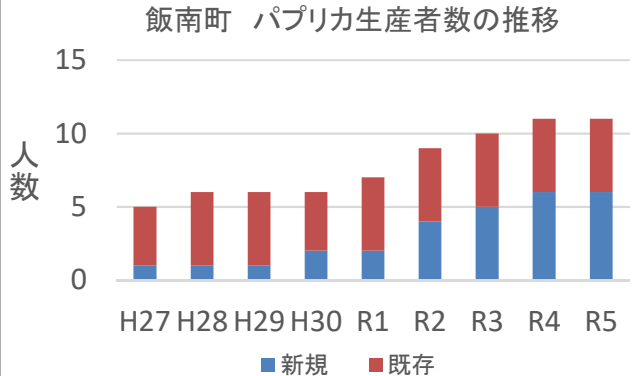


統一ロゴとリーフレット (QRコード)

3. 取組の成果

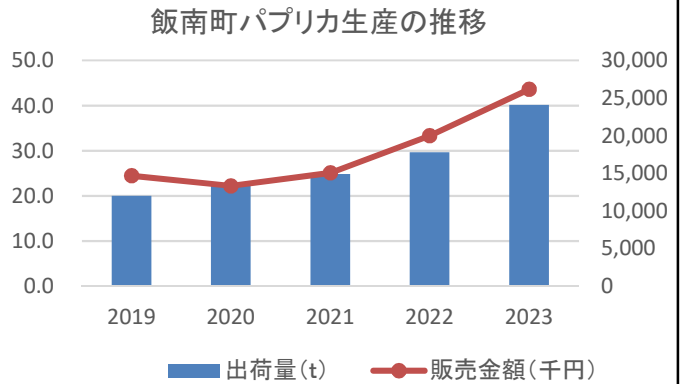
(1) 新規就農者がパプリカ産地をけん引

これまで研修生5名が、町研修制度を活用し就農。現在、第1号研修生が師匠となり、積極的に研修を受け入れることにより、現生産者の4割が新規就農者。



(2) 出荷量・販売額が年々拡大

生産者の増加に合わせ、収量性が高く高品質な新品種の導入、病虫害防除の徹底、仕立て法の改善により、年々出荷量・販売額が拡大。



生産者から一言



部会長(左)と研修生(右)

販売先の期待を裏切らないよう、大玉パプリカを切れ目なく出荷し、さらに生産拡大できるように部会全体で新規就農者の掘り起こし、育成を行い、全国トップ10の産地入りを目指したい。

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 防除暦の再検討による病虫害防除対策
- (2) 自家育苗の導入
- (3) 新たな就農者の確保・育成による生産拡大
- (4) 資材高騰に対応した中古ハウスの情報収集